平成30年度
SGH事業検証報告

2019年6月28日（金）筑波大学東京キャンパス

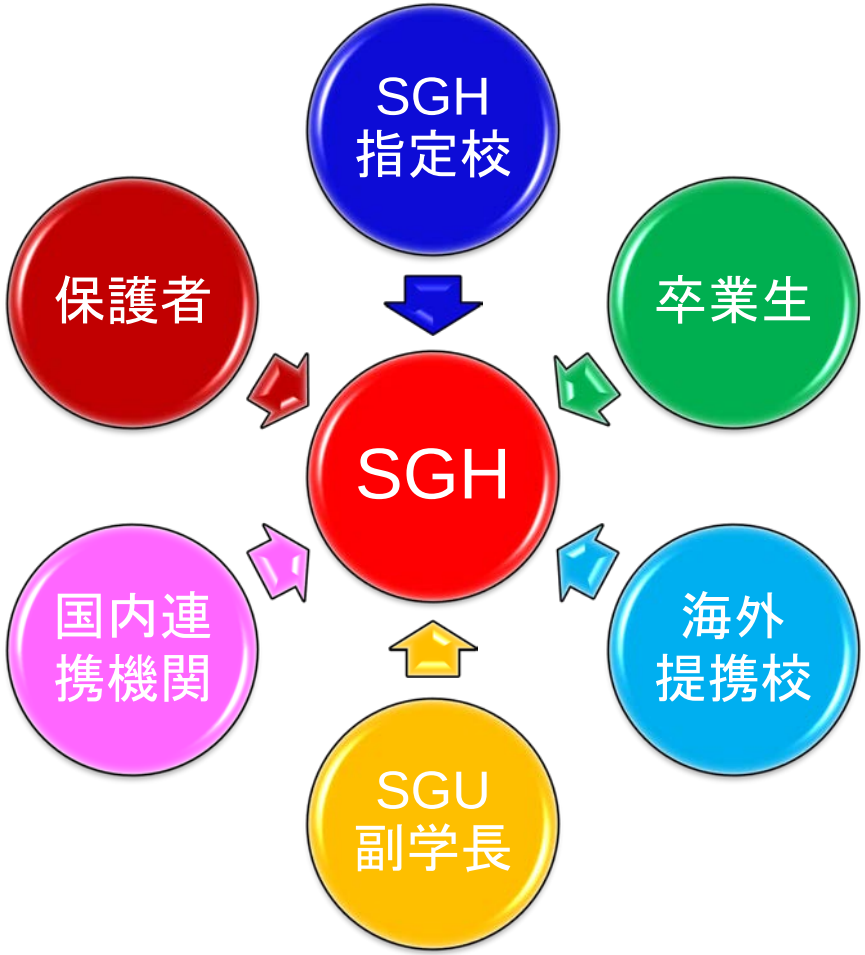
筑波大学ビジネスサイエンス系教授　永井裕久

University of Tsukuba

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

PresentationPoint

検証アプローチ



調査方法

	調査方法	H26 指定校	H27 指定校	H28 指定校
書面調査	①目標設定シート	○	○	○
	②国外研修派遣者数	○	○	○
	③海外大学進学者数	○	○	○
	④WEB 書面	○	○	○
アンケート調査	⑤教育課程に関する質問	○	○	○
	⑥指定校事業成果調査	○	○	○
	⑦海外提携校調査	○	○	○
	⑧卒業生調査	○		
	⑨卒業生保護者調査	○		
	⑩国内連携機関調査	○		
聴取調査	⑪SGH 受講卒業生	○		
	⑫国内連携機関	○		
	⑬SGH 副学長	○		

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

成果検証結果の概要

（エグゼクティブサマリー）

調査機関
筑波大学 SGH 研究班

検証目的

本成果検証の目的は、以下の4つのリサーチクエスチョンに基づき、書面調査、アンケート調査、インタビュー調査を通して SGH プログラムの5年間の事業活動の成果を検証し、次世代グローバル人材育成の促進に向けた提案を行うことである。

リサーチクエスチョン

- **SGH プログラムは、この5年間でどのような教育プログラムを開発し、何を変えたのか？**
- **SGH プログラムは、受講生にどのような資質や能力の向上をもたらしたのか？**
- **SGH 受講は、どのように卒業生たちの進路選択や進学後の大学での学びに役立っているのか？**
- **外部ステークホルダー（SGU 副学長、国内外連携機関、保護者、インターナショナルスクール・国際認証機関）はどのように SGH を評価しているのか?**

調査方法

以下の 3 カテゴリー、下表の 11 調査データにもとづき分析した。
①は、平成 26 年～29 年度の目標設定シート、および研究開発完了報告書の資料にもとづく。②～⑦は、WEB アンケートにより、調査協力者が直接 WEB サイトから入力したデータにもとづき分析した。インタビュー調査⑧、⑪は、研究班からの調査依頼に承諾が得られた SGU、インターナショナルスクールを訪問し、⑨、⑩は、アンケート調査④、⑦で協力意思が表示された卒業生、海外連携校を調査対象とした。

カテゴリー＆調査	対象	n
Ⅰ. 書面		
①平成 26 年度～29 年度書面	H26,27,28SGH 指定校	123
②WEB 書面	H26,27,28SGH 指定校	123
Ⅱ. アンケート		
③指定校事業成果検証	H26,27,28SGH 指定校管理者	119
④卒業生	H26SGH 指定校（受/非受講生）	837
⑤卒業生の保護者	H26SGH 指定校受講者の保護者	614
⑥国内連携機関	H26 指定校の国内連携機関	84
⑦海外提携校	H26,27,28SGH 指定校海外連携校	78
Ⅲ. インタビュー		
⑧SGU 副学長	SGU トップ型・牽引型校副学長	27
⑨卒業生	調査④に協力した卒業生	36
⑩海外連携校	調査⑦に協力した海外連携校	11
⑪インターナショナルスクール・国際認証機関	Council of International Schools, Japan Council of International Schools の日本所在校	4

WEB書面調査

- 調査対象：H26，H27, H28指定校管理者

①SGH研究開発目標に対するH30年度の成果評価

➢ 経年的に、着実に目標達成に向かっている。

[1]		Q10. SGHに係る研究開発目標に対しての本年度の成果評価				計	平均	標準偏差
		1：C 目標達成困難な取組の廃止・縮小要	2：B 目標達成には取組内容の改善要	3：A 現状の取組継続により目標達成可能	4：S 目標以上の取組状況			
H26年度	n	0	2	34	20	56	3.32	0.54
	構成比	0.0%	3.6%	60.7%	35.7%	100.0%		
H27年度	n	0	4	45	6	55	3.04	0.43
	構成比	0.0%	7.3%	81.8%	10.9%	100.0%		
H28年度	n	0	2	6	3	11	3.09	0.70
	構成比	0.0%	18.2%	54.5%	27.3%	100.0%		
計	n	0	8	85	29	122	3.17	0.53
	構成比	0.0%	6.6%	69.7%	23.8%	100.0%		

WEB書面調査

②SGH参加校との連携または交流

- 経年的にSGH校間の連帯が強まっている。

[4-3]	SGH参加校との連携または交流		
	Q1. 連携／交流先SGH校数		
	n	平均	標準偏差
H26年度	52	3.10	3.98
H27年度	54	2.91	2.71
H28年度	11	1.64	1.86
計	**117**	**2.87**	**3.28**

WEB書面調査

③卒業時におけるCEFR・B1（中級）、B2（中級の上）レベルの生徒割合

- SGH受講、指定期間の長さが達成者の割合を高め、着実に英語力を伸張している。

[8-3]		採択年度	卒業時におけるCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合			
			SGH対象生徒		SGH対象外生徒	
			n	平均	n	平均
Q1.	CEFRレベル「B1」達成者の割合（%）	H26年度	56	52.45	55	19.84
		H27年度	53	42.77	50	14.06
		H28年度	11	31.27	11	12.64
		計	120	46.23	116	16.66
Q2.	CEFRレベル「B2」達成者の割合（%）	H26年度	56	17.50	54	5.28
		H27年度	53	14.49	50	6.54
		H28年度	11	5.27	11	0.45
		計	120	15.05	115	5.37

卒業生調査

- 調査対象：H26指定校のSGH採択後の卒業生（有効回答 n=835）

SGH受講形態（全員受講・選抜受講・非受講）による層別

④SGHプログラム受講による進路選択や職業志望に対する問題意識への影響

➢ 「選抜受講」は、「全員受講」より18ポイント高い。

		Q2a-1. SGHプログラム受講による進路や職業志望への影響					Total	平均	標準偏差
		まったく受けなかった	あまり受けなかった	どちらとも言えない	どちらかというと受けた	とても受けた			
全員受講	n	77	87	72	118	46	400	2.92	1.32
	構成比	19.3%	21.8%	18.0%	29.5%	11.5%	100.0%		
選抜受講	n	28	38	50	111	58	285	3.47	1.23
	構成比	9.8%	13.3%	17.5%	38.9%	20.4%	100.0%		
Total	n	105	125	122	229	104	685	3.15	1.31
	構成比	15.3%	18.2%	17.8%	33.4%	15.2%	100.0%		

卒業生調査

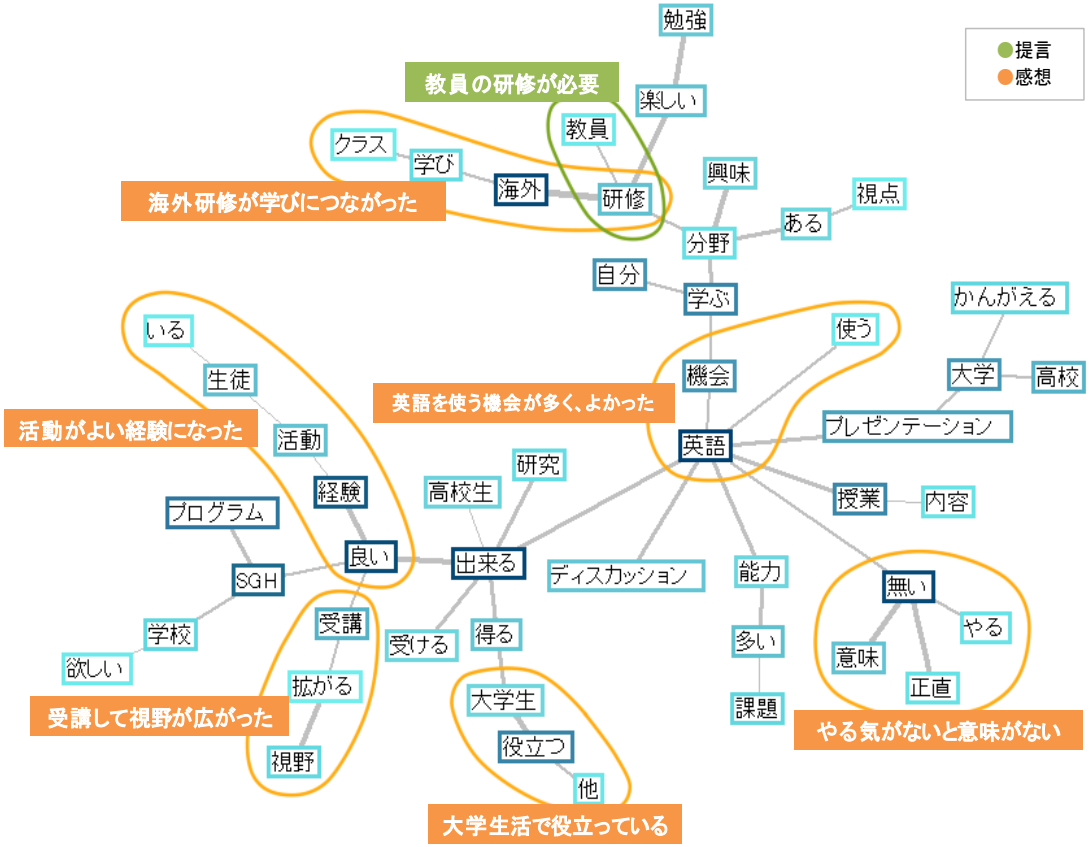
⑤授業方法の有用性

➢全般的に「選抜受講」>「非受講」>「全員受講」の順番から、本人希望による受講の重要性が確認される。

			Q2a-2. 受講有：有用性評価 Q2b-1. 受講無：有用性評価		
			n	平均	標準偏差
a	英語による英語以外の授業	全員受講	246	4.58	1.77
		選抜受講	195	4.84	1.73
		Total	**441**	**4.69**	**1.76**
		非受講	149	4.88	1.69
b	外国人教員などによる授業	全員受講	364	5.09	1.58
		選抜受講	246	5.18	1.56
		Total	**610**	**5.13**	**1.57**
		非受講	150	5.63	1.39
c	ロジカルシンキングの方法（筋が通った考え方や説明の方法）に関する授業	全員受講	347	5.18	1.43
		選抜受講	241	5.52	1.37
		Total	**588**	**5.32**	**1.41**
		非受講	150	5.74	1.41
d	現実問題の解決のための研究方法（データの取り方や分析の方法）に関する授業	全員受講	354	5.24	1.46
		選抜受講	251	5.61	1.36
		Total	**605**	**5.39**	**1.43**
		非受講	149	5.60	1.43
e	プレゼンテーションの方法（資料の作り方、発表の仕方、質問への答え方）に関する授業	全員受講	374	5.78	1.45
		選抜受講	264	6.22	1.01
		Total	**638**	**5.96**	**1.30**
		非受講	150	5.97	1.31
f	課題研究レポートのまとめ方（形式や構成）に関する授業	全員受講	367	5.46	1.45
		選抜受講	261	5.85	1.20
		Total	**628**	**5.62**	**1.36**
		非受講	150	5.71	1.48
g	海外研修	全員受講	288	5.30	1.75
		選抜受講	233	5.72	1.60
		Total	**521**	**5.49**	**1.70**
		非受講	149	5.18	1.54
h	海外生徒との交流経験（海外研修を除く）	全員受講	322	5.05	1.75
		選抜受講	236	5.48	1.57
		Total	**558**	**5.23**	**1.69**
		非受講	146	5.14	1.59
i	フィールドワーク	全員受講	321	5.14	1.49
		選抜受講	236	5.56	1.48
		Total	**557**	**5.32**	**1.50**
		非受講	149	4.92	1.44
j	日本語での課題研究レポート作成	全員受講	373	5.13	1.55
		選抜受講	263	5.56	1.43
		Total	**636**	**5.31**	**1.51**
		非受講	150	5.34	1.49
k	英語での課題研究レポート作成	全員受講	299	4.89	1.71
		選抜受講	223	5.32	1.56
		Total	**522**	**5.07**	**1.66**
		非受講	149	5.00	1.54
l	生徒自らによる探究課題設定	全員受講	364	5.25	1.55
		選抜受講	260	5.64	1.31
		Total	**624**	**5.41**	**1.47**
		非受講	150	5.27	1.48
m	生徒自らによる調査データ収集・分析	全員受講	367	5.31	1.48
		選抜受講	264	5.66	1.28
		Total	**631**	**5.46**	**1.41**
		非受講	150	5.35	1.50
n	日本語でのグループワーク	全員受講	388	5.22	1.50
		選抜受講	272	5.74	1.35
		Total	**660**	**5.43**	**1.46**
		非受講	150	5.21	1.58
o	英語でのグループワーク	全員受講	325	4.82	1.66
		選抜受講	219	5.21	1.61
		Total	**544**	**4.98**	**1.65**
		非受講	150	4.98	1.54
p	日本語でのディスカッションないしはディベート	全員受講	361	5.17	1.56
		選抜受講	261	5.59	1.42
		Total	**622**	**5.35**	**1.52**
		非受講	150	5.51	1.46
q	英語でのディスカッションないしはディベート	全員受講	317	4.88	1.67
		選抜受講	221	5.22	1.56
		Total	**538**	**5.02**	**1.64**
		非受講	149	5.15	1.52
r	日本語でのプレゼンテーション	全員受講	382	5.49	1.50
		選抜受講	269	5.99	1.27
		Total	**651**	**5.70**	**1.43**
		非受講	150	5.69	1.46
s	英語でのプレゼンテーション	全員受講	336	5.21	1.68
		選抜受講	244	5.69	1.47
		Total	**580**	**5.41**	**1.61**
		非受講	150	5.53	1.43

卒業生調査

⑥自由記入欄のテキストマイニング分析:「SGH受講の感想や提案」



- 海外研修から学び、英語活用、視野拡大、大学生活で役立つ
- 受講生のやる気がないと意味がない、教員の研修が必要

卒業生保護者調査

●調査対象：H26指定校の卒業生保護者
（有効回答 n=613）

⑦子供のSGHプログラムへの満足度

➢ 76%が「満足」に回答している。

		Q2.e. 子どものSGHプログラムへの満足度合						
		とても不満がある様子だった	不満がある様子だった	どちらかと言えば不満がある様子だった	どちらかと言えば満足している様子だった	満足している様子だった	とても満足している様子だった	分からない
1年間受講	n	0	3	10	29	57	42	31
	構成比	0.0%	1.7%	5.8%	16.9%	33.1%	24.4%	18.0%
2年間受講	n	5	1	9	24	41	33	15
	構成比	3.9%	0.8%	7.0%	18.8%	32.0%	25.8%	11.7%
3年間受講	n	4	2	22	66	103	55	40
	構成比	1.4%	0.7%	7.5%	22.6%	35.3%	18.8%	13.7%
Total	n	9	6	41	119	201	130	86
	構成比	1.5%	1.0%	6.9%	20.1%	34.0%	22.0%	14.5%

保護者調査

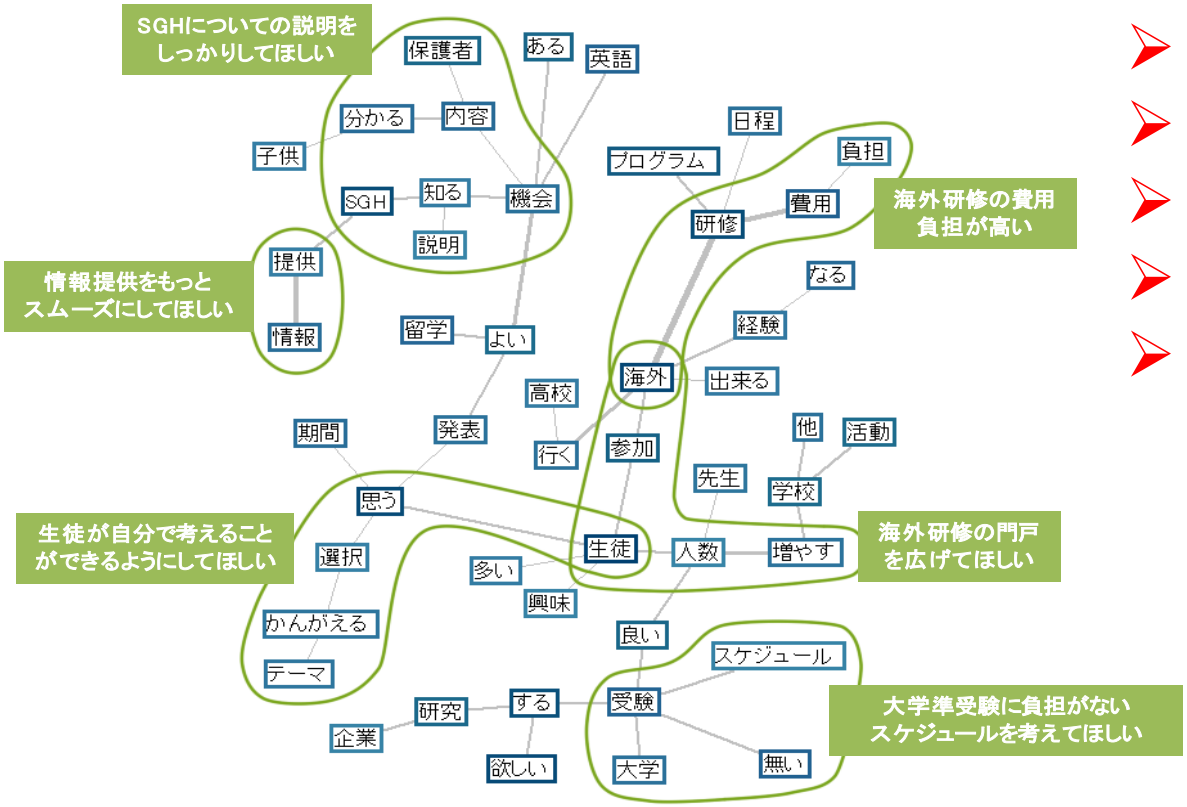
⑧SGHプログラムの継続要望

➢89%が「継続を要望」しており、3年間受講した保護者の要望が高い。

		Q6. SGHプログラムの継続要望					Total	平均	標準偏差
		継続する必要はない	どちらかと言えば継続する必要はない	どちらとも言えない	どちらかと言えば継続してほしい	継続してほしい			
1年間受講	n	1	1	20	37	112	171	4.51	0.77
	構成比	0.6%	0.6%	11.7%	21.6%	65.5%	100.0%		
2年間受講	n	2	0	20	25	80	127	4.43	0.87
	構成比	1.6%	0.0%	15.7%	19.7%	63.0%	100.0%		
3年間受講	n	1	3	29	50	209	292	4.59	0.74
	構成比	0.3%	1.0%	9.9%	17.1%	71.6%	100.0%		
Total	n	4	4	69	112	401	590	4.50	0.80
	構成比	0.7%	0.7%	11.7%	19.0%	68.0%	100.0%		

保護者調査

⑨自由記入欄のテキストマイニング分析:「SGHに求める改善」



- SGHについて説明
- 情報提供をスムーズに
- 海外研修の門戸拡大
- 海外研修の費用負担
- 大学受験への負担軽減

国内連携機関

- 調査対象： H26指定校の運営に協力する国内連携機関（大学、国際機関、民間団体、NGO、NPO等）（有効回答 n=84）

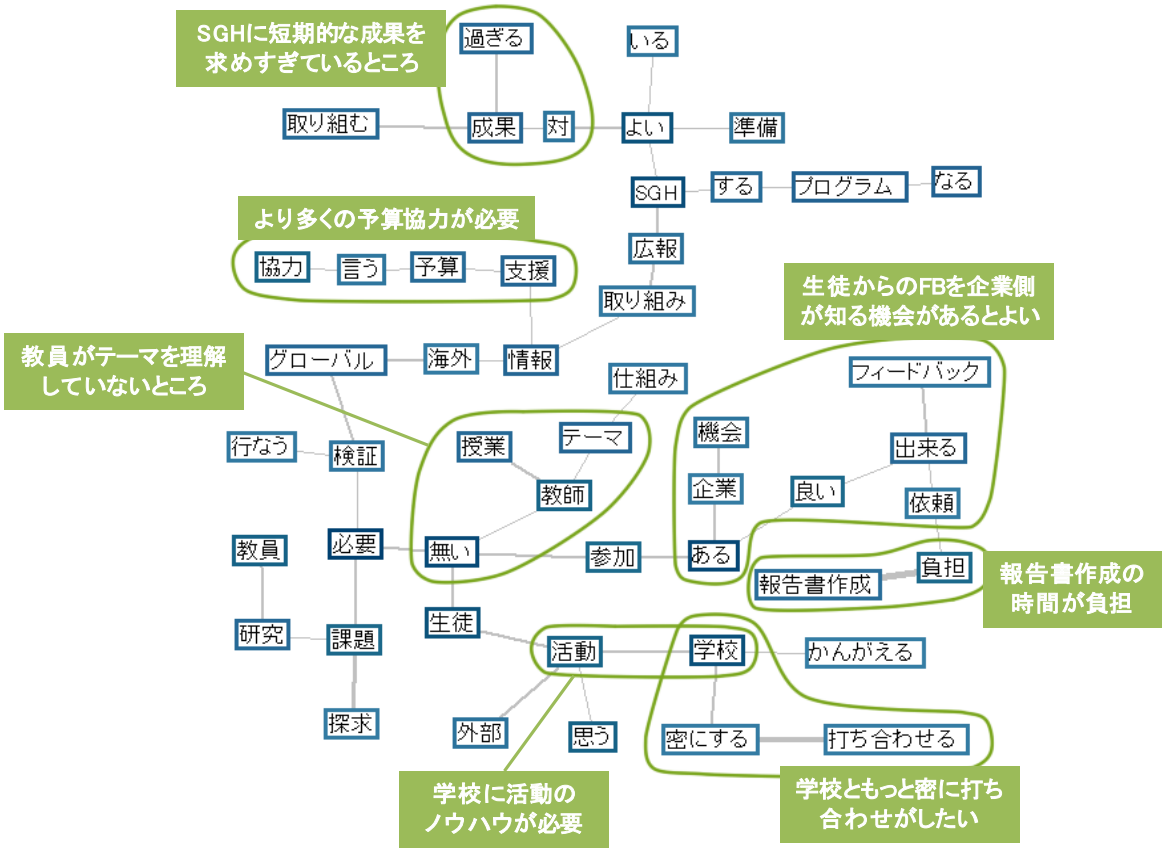
⑩生徒の関心度合い

➢83%が「高かった」と回答している。

		Q7. SGHプログラムに協力した際の生徒の関心度合い						Total	平均	標準偏差
		とても低かった	低かった	どちらかと言えば低かった	どちらかと言えば高かった	高かった	とても高かった			
スポットで1日のみ	n	0	0	0	6	4	6	16	5.00	0.89
	構成比	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	25.0%	37.5%	100.0%		
短期間/低頻度	n	0	0	0	2	5	9	16	5.44	0.73
	構成比	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	31.3%	56.3%	100.0%		
中期間/中頻度	n	0	0	0	4	8	10	22	5.27	0.77
	構成比	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	36.4%	45.5%	100.0%		
長期間/高頻度	n	0	0	1	1	15	11	28	5.29	0.71
	構成比	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	53.6%	39.3%	100.0%		
Total	n	0	0	1	13	32	36	82	5.27	0.77
	構成比	0.0%	0.0%	1.2%	15.9%	39.0%	43.9%	100.0%		

国内連携機関

⑪自由記入欄のテキストマイニング分析:「SGHに関して改善した方がよいところ」



- 短期的な成果を求めない
- より多くの予算協力
- 教員のテーマ理解
- 生徒から協力機関へのフィードバック(探究研究)
- 学校との密な打合せ

海外連携校

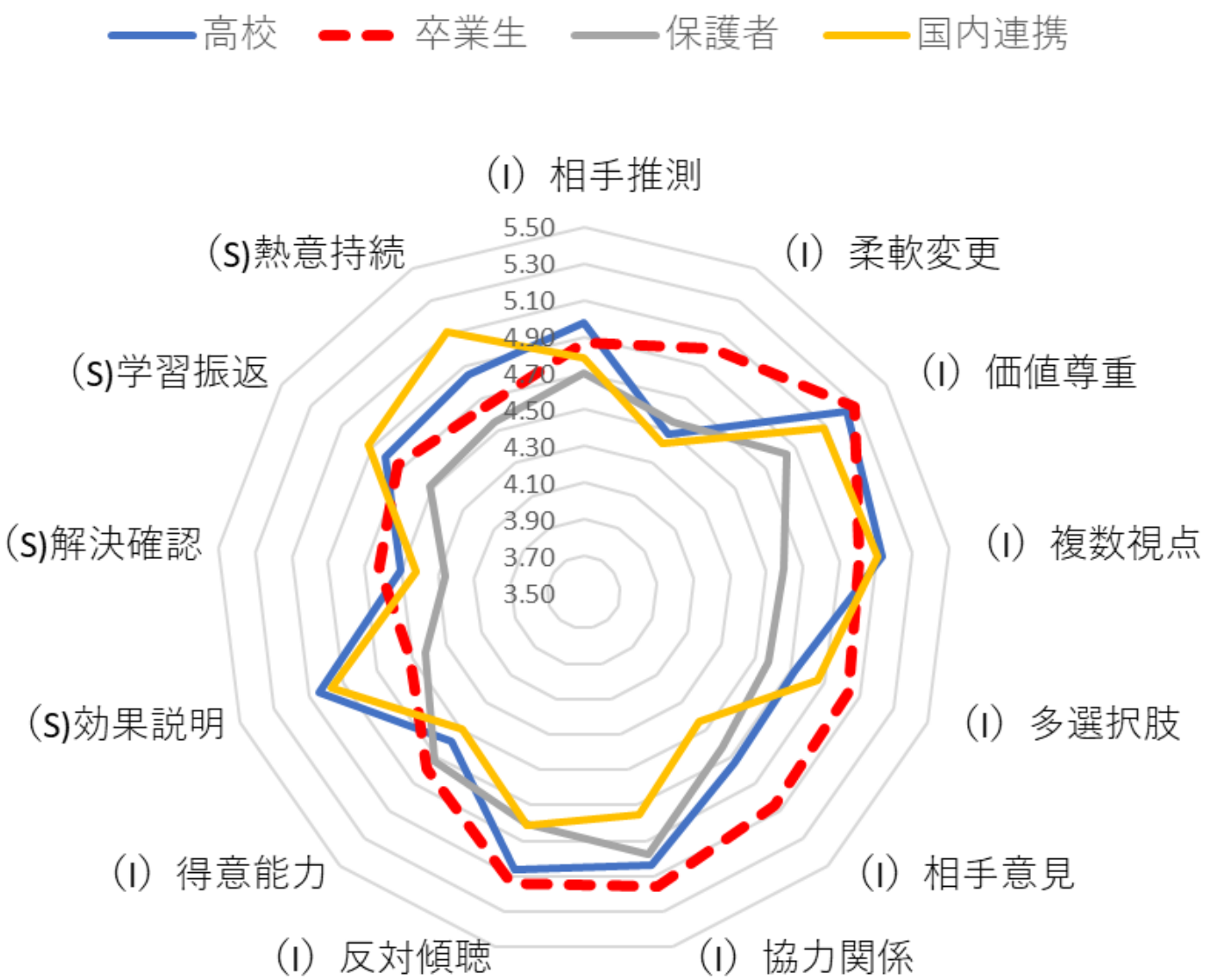
- 調査対象：H26, 27, 28指定校の海外連携機関（有効回答　n=78）

⑫日本のSGH連携校との交流満足度

➢98.7%が「満足」と回答し、経年的に満足度が向上している。

		Q2_10. Do you agree that collaborating with the SGH partner school is beneficial for the following stakeholders? 10.1. SGH partner high school in Japan to educate their global youth leaders?					
		Completely disagree	Disagree	Slightly disagree	Slightly agree	Agree	Completely agree
Less than 1 year	*n*	0	0	0	0	7	4
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	63.6%	36.4%
1-4 years	*n*	0	1	0	1	15	21
	%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	39.5%	55.3%
5 years or longer	*n*	0	0	0	0	10	19
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	34.5%	65.5%
Total	*n*	0	1	0	1	32	44
	%	0.0%	1.3%	0.0%	1.3%	41.0%	56.4%

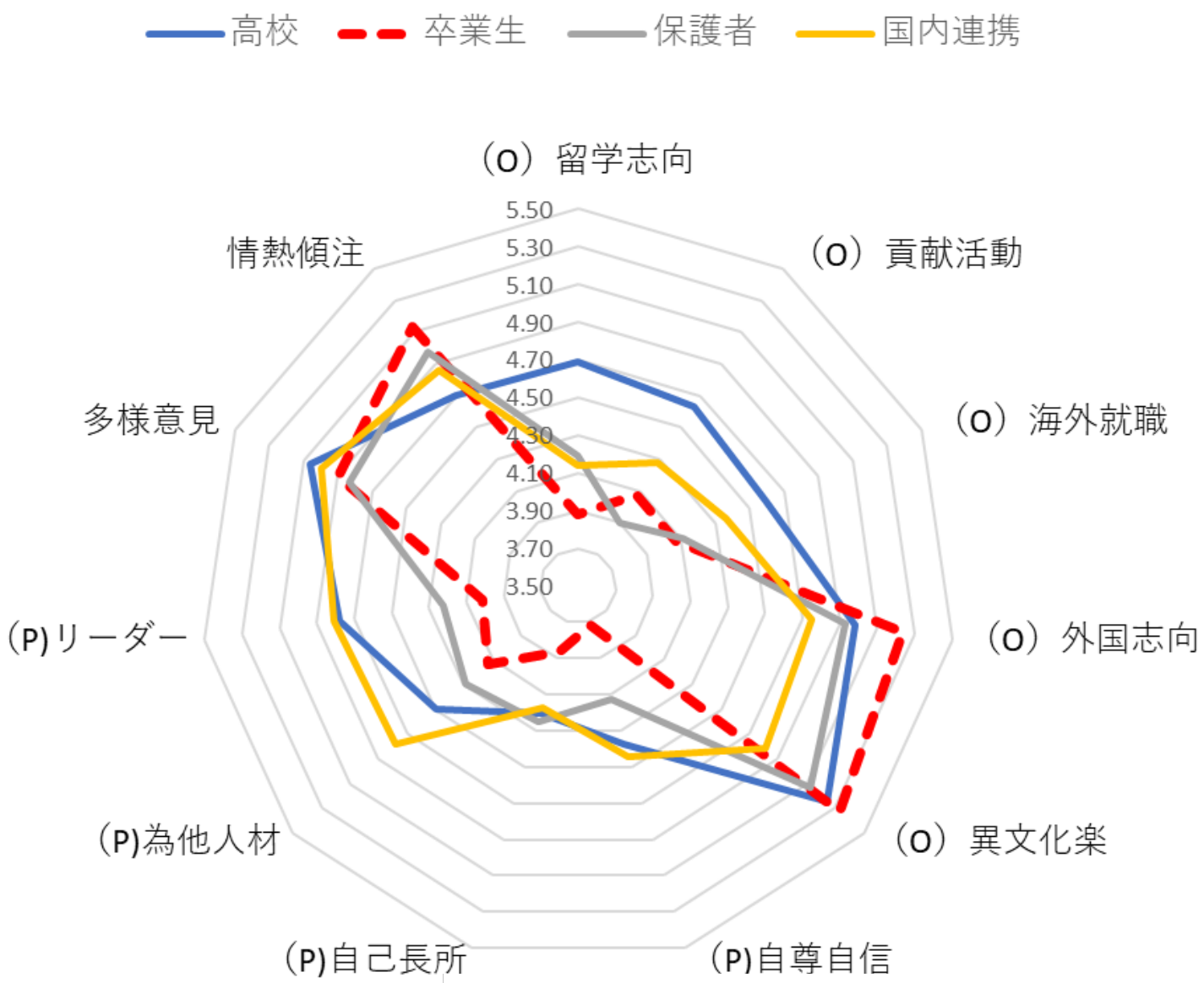
コンピテンシー修得度の４者間比較



因子分析による尺度分類と信頼性

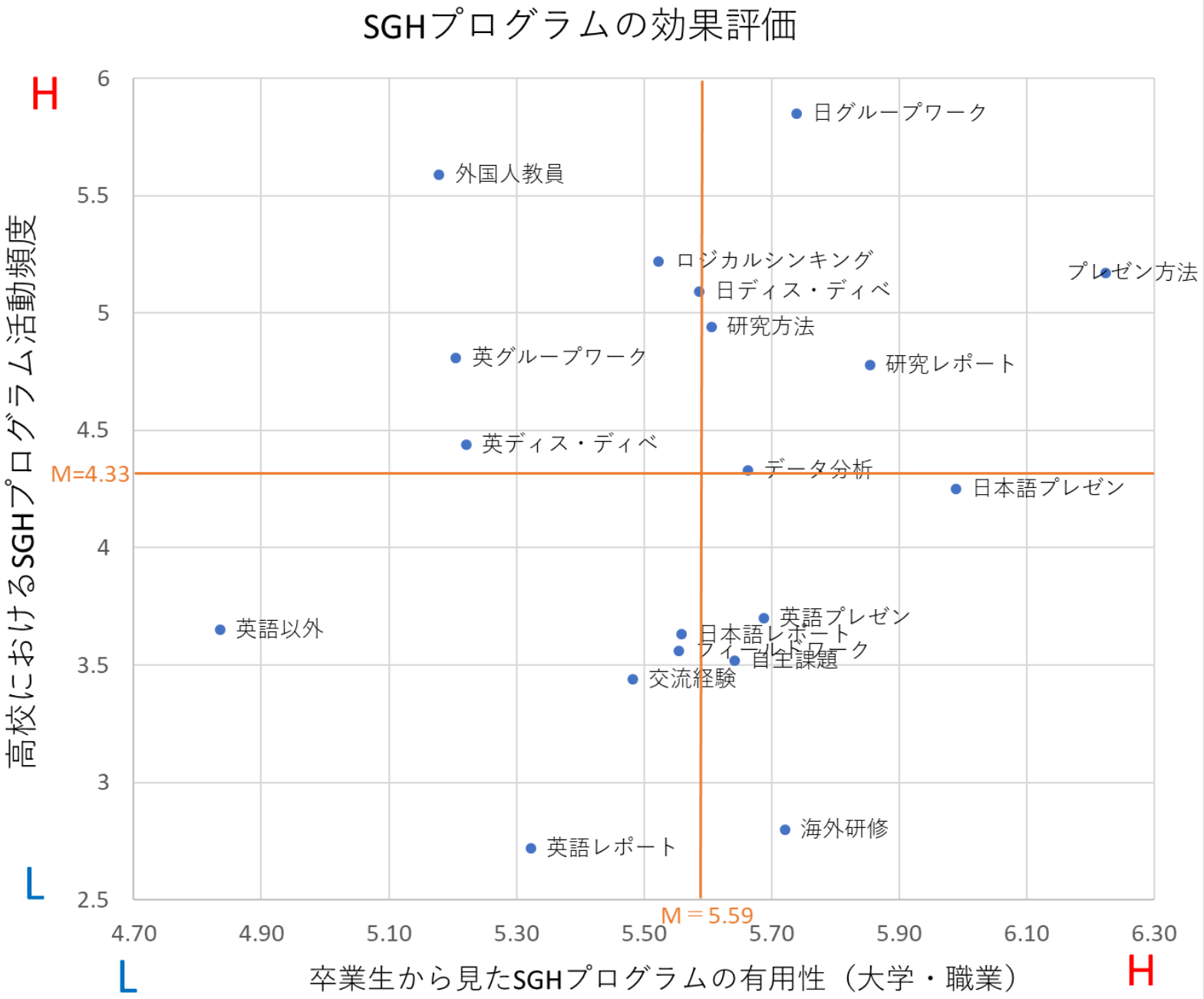
(I)nterpersonal:対人関係（α＝.898）(S)olution:問題解決（α＝.867）

マインドセット修得度の４者間比較



因子分析による分類と尺度の信頼性

(O)verseas:海外志向（α＝.861）(P)ersonal:自己評価（α＝.840）


SGHプログラムの効果評価
H
L
高校におけるSGHプログラム活動頻度
6
5.5
5
4.5
4
3.5
3
2.5
M=4.33
日グループワーク
外国人教員
ロジカルシンキング
プレゼン方法
日ディス・ディベ
研究方法
英グループワーク
研究レポート
英ディス・ディベ
データ分析
日本語プレゼン
英語プレゼン
英語以外
日本語レポート
フィールドワーク
自主課題
交流経験
海外研修
英語レポート
4.70
4.90
5.10
5.30
5.50
5.70
5.90
6.10
6.30
M＝5.59
L
卒業生から見たSGHプログラムの有用性（大学・職業）
H

まとめに代えて

- SGH研究開発、国内外連携、英語力向上等の成果は着実に進捗している。今後は、連携先等との情報共有を一層促進し、よりスピード感をもったベストプラクティスの標準化が望まれる。
- 動機づけの高い受講生を選抜し、選択と集中によるROI向上をめざすことが、限られたリソースの中でプログラムを維持するために有効であろう。
- グローバル人材に求められる「問題解決能力」向上のために、リサーチメソッド教育の継続的な開発と強化が重要である。
- 「自己評価」の向上は、根強い最重要課題の一つである。 海外研修は効果的であるが、国内においても多様な価値観や既存の枠組みにとらわれない発想や行動を容認する取組みや機会提供が有効と考えられる。自律的なPDCAにより、自己効力感（self-efficacy)のある人材を育成することが大切であろう。
- 全ての前提として、グローバル教育のためのティーチングメソッド開発と教員向け研修の整備が取り組むべき喫緊の重点課題といえるであろう。

調査機関
筑波大学 SGH 研究班

＜調査設計＞
永井裕久（研究代表者・筑波大学ビジネスサイエンス系教授
・附属学校教育局特命補佐）
椿広計（統計センター理事長・筑波大学名誉教授）
Benton, F. Caroline（筑波大学副学長・理事：国際担当
・ビジネスサイエンス系教授）
木野泰伸（筑波大学ビジネスサイエンス系准教授）
川﨑将男（株式会社アルゴ取締役）
朱藝（筑波大学ビジネスサイエンス系助教）

＜研究倫理＞
濱本悟志（筑波大学附属学校教育局教授・次長）

＜調査協力研究者＞
平井孝志（筑波大学ビジネス科学研究科教授・国際経営
プロフェッショナル専攻長）
Magnier-Watanabe, Remy （筑波大学ビジネスサイエンス系准教授）
Deseatnicov, Ivan（筑波大学ビジネスサイエンス系助教）
Tan, S.L. Caroline（筑波大学ビジネスサイエンス系准教授）
Maswana, Jean-Claude（筑波大学ビジネスサイエンス系准教授）
顧俊堅（筑波大学ビジネスサイエンス系助教）
Kucheryavyy Konstantin （東京大学公共政策大学院助教）

＜外部調査協力研究者＞
高橋潔（立命館大学心理学部教授）
義村敦子（成蹊大学経済学部教授）
鈴木美枝子（いわき短期大学幼児教育科教授）
小澤伊久美（国際基督教大学教養学部講師）

＜分析協力者・分析補助員＞
黒木弘司（筑波大学非常勤職員）
株式会社シタシオンジャパン
GOB Incubation Partners 株式会社

＜調査事務局＞
冨樫晶子（筑波大学東京キャンパス事務部企画推進課国際担当係長）
増尾はづき（筑波大学東京キャンパス事務部海外交流アドバイザー）
高田智子（筑波大学東京キャンパス事務部事務補佐員）

（所属機関、役職名は、2019年3月末時点）